社会資本総合整備計画　　事後評価書

令和07年11月10日

計画の名称	新たな市街地形成による活力あるまちづくり
計画の期間	平成３１年度　～　令和０５年度　(5年間)　　重点配分対象の該当
交付対象	館林市
計画の目標	本地区は、館林市の中心部である東武伊勢崎線館林駅の西部に位置し、館林市の玄関口にふさわしい都市機能をもつ地区として整備を進めています。 土地区画整理事業の施行により、館林駅西部地区の活性化と居住人口確保のため、公共施設の整備及び宅地の利用増進を図り、快適で利便性の高い市街地の形成を行い、活力ある魅力的なまちづくりを目指します。

全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）	2,596	A	2,596	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H31当初		R5末
1	地域住民が円滑に移動できる都市空間を創出し、安全で快適に暮らせる住環境を形成する。			
	市街地の道路整備率を算定する。 円滑に移動できる道路の割合＝整備済みの道路延長／土地区画整理事業により整備される道路延長×100	73%	%	75%
2	良好な市街地を整備し、宅地の利用増進を図る。			
	市街地の宅地整備率を算定する。 良好な市街地形成が整った宅地の割合＝整備済みの宅地面積／土地区画整理事業により整備される宅地の面積×100	61%	%	62%

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

案件番号：　0000694501

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別１	種別２	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	市区町村名／港湾・地区名	事業実施期間（年度） H31	R02	R03	R04	R05	全体事業費（百万円）	費用便益比	個別施設計画策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
道路事業	A01-001	街路	一般	館林市	直接	館林市	区画	改築	西部第一中地区	３４．２ｈａ	館林市	■	■	■	■		330		－
	A01-002	街路	一般	館林市	直接	館林市	区画	改築	西部第二地区	７４．７ｈａ	館林市	■	■	■	■	■	1,771		－
	A01-003	街路	一般	館林市	直接	館林市	区画	改築	西部第一南地区	７３．２ｈａ	館林市	■	■	■	■	■	260		－
											小計						2,361		
市街地整備事業	A13-004	市街地	一般	館林市	直接	館林市	－	－	西部第一南地区	７３．２ｈａ	館林市	■	■	■	■	■	151	1.16	－
	A13-005	市街地	一般	館林市	直接	館林市	－	－	西部第二地区	７４．７ｈａ	館林市		■	■	■	■	84	1.08	－
											小計						235		
											合計						2,596		

案件番号： 0000694501

事　後　評　価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
館林市区画整理課において事業評価を実施	令和7年度
	公表の方法
	館林市ホームページに掲載

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	目標値を道路整備率75%、宅地整備率62%に設定したが、三地区の土地区画整理事業が進捗したことにより、道路整備率77%、宅地整備率67%となり、目標値を上回る実績値となった。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	

○特記事項（今後の方針等）

本計画終了後も第2期整備計画を実施中であり、引き続き新たな市街地形成による活力あるまちづくりを推進する。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1			
	最　終 目標値	75%	道路整備が想定よりも順調に進捗した
	最　終 実績値	77%	
2			
	最　終 目標値	62%	宅地整備が想定よりも順調に進捗した
	最　終 実績値	67%	

案件番号：0000694501